

# 京都教育大学FDニュース

No.107

2025年8月20日

京都教育大学FD委員会

\*\*\*\*\*

本学におけるFD活動の一環として実施している「授業アンケート」へのご理解とご協力  
を感謝申し上げます。

今回のFDニュースでは、2024年度教育学部後期授業アンケートについて、2025年度第  
1回FD研修会について、2025年度前期教育学部授業中間アンケート実施結果調査につ  
いて報告いたします。

\*\*\*\*\*

## 1. 2024年度教育学部後期授業アンケートについて

### 1. 調査の概要と実施状況

実施期間：2025年1月21日（火）～2月3日（月）

実施科目：受講登録者6名以上の全授業科目

対象科目数：357科目、回収科目数：319科目（全白紙9部除く）（実施率：89.4%）

実施科目履修登録者数：12,086名、回答者数：9,836名（回答率：81.4%）

2015年度前期からの実施率と回答率の変遷を図1に示します。前回2024年度前期アン  
ケートの実施率90.5%および回答率79.6%と比べて、2024年度後期アンケートも同様の実  
施率、回答率だったことがわかりました。

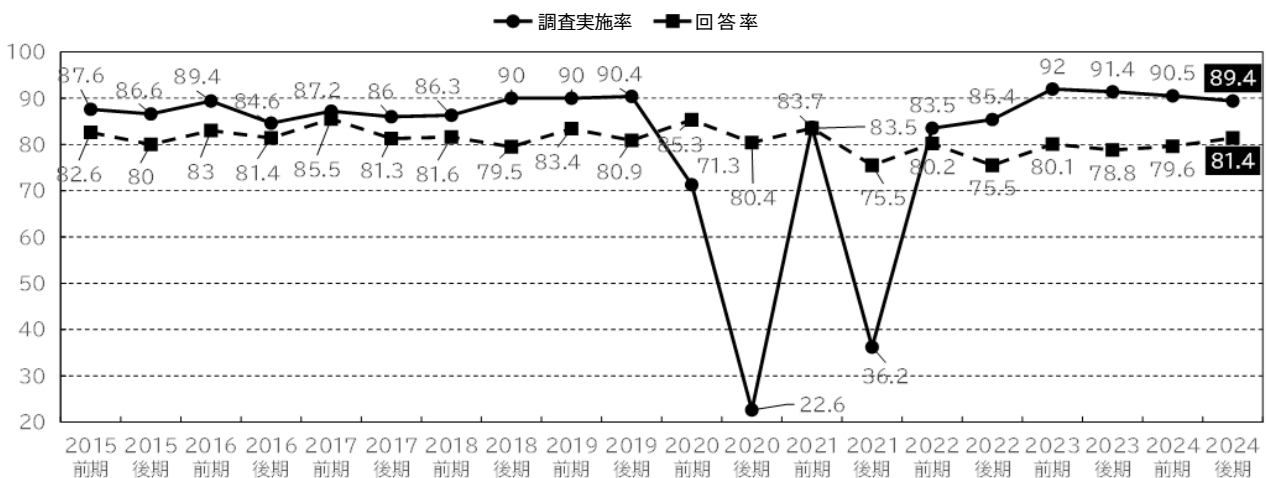


図1 授業アンケートの実施率と回答率の変遷（2015年～2024年）

### 2. 結果の概要

【Q1. 授業を選択した動機】について図2に示します。当該科目を受講した動機は、「必修だから」が66.8%と最も多く、次に「興味・関心」が24.1%と続いています。近年の授業アンケートの結果と比較して、受講動機の傾向は変化していないようです。

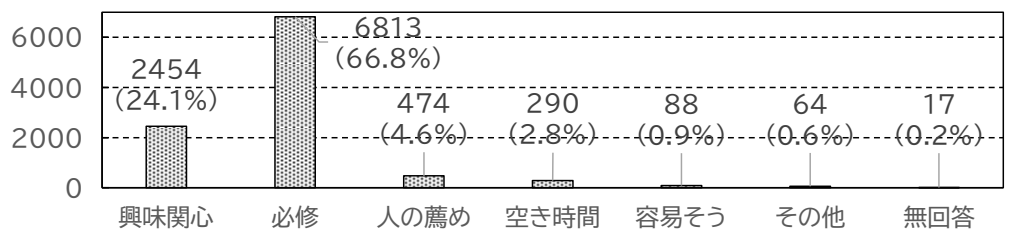


図2 受講動機の内訳（複数選択可）

【Q2 から Q15 の結果 (Q10 と Q13 を除く)】について、4 件法で回答を求めた項目 (Q10 と Q13 以外の 12 項目) の結果を図 3 に示します。濃い色の左 2 つの回答が肯定的回答、薄い色の右 2 つが否定的回答です。例年のアンケート結果と同様に概ね肯定的な回答となる傾向でした。

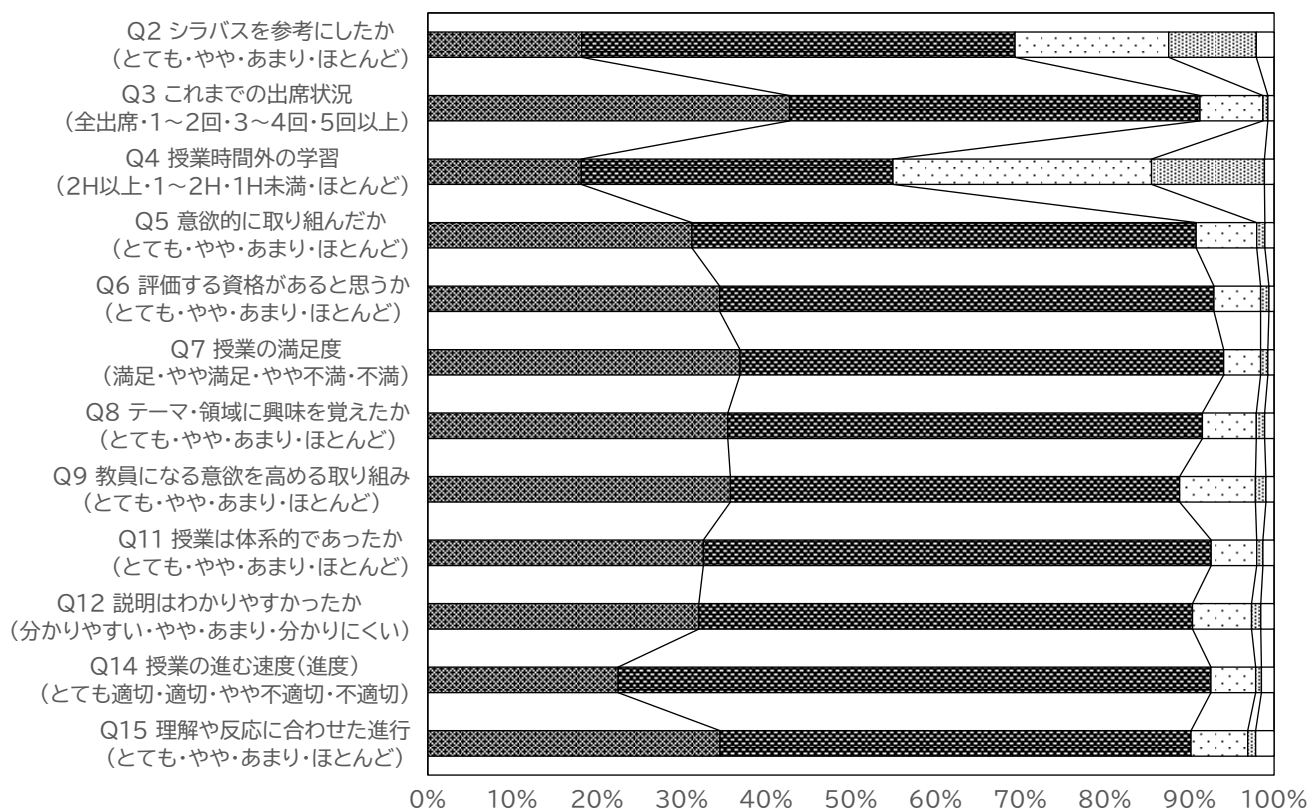


図 3 質問項目 (Q2~Q15) の回答の内訳 ※Q10 および Q13 については別図

【Q7. 授業の満足度】の項目を見ると「満足・やや満足」の回答割合は 94.0%と高い数値になりました。多くの項目で 90%を越える肯定的回答となっていますが、【Q2.シラバスを参考にしたか】では「とても・やや」の回答が 69.4%、【Q4. 授業時間外の学習】では「2H 以上・1H~2H」の回答が 55.0%と課題が残る結果となりました。例年の傾向と同様の結果となっていることは指摘しておきたいと思います。

【Q10. 授業は難しかったか】【Q13. テキストは難しかったか】について図 4 に示します。この 2 項目は他の項目とは異なり 5 件法 (とても難しかった・やや難しかった・ちょうどよかった・やや易しかった・とても易しかった) で回答を求めました。Q10、Q13 ともに「ちょうどよい」と「やや難しい」の 2 カテゴリで 90%近い回答が得られました。

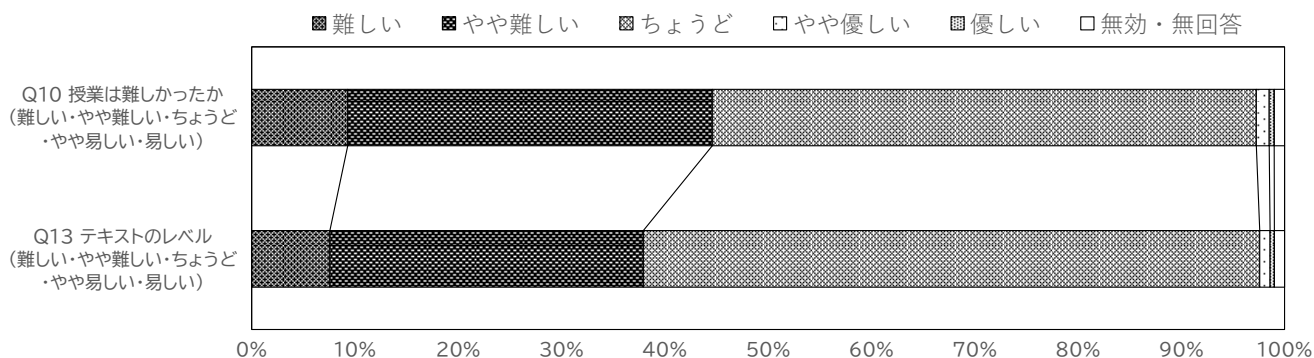


図 4 質問項目 (Q10 および Q13) の回答の内訳

【Q4. 授業外の学習時間】とその他の質問項目との関係について、2020年度前期よりクロス集計を行っています。顕著な差が見られた6項目について平均点をレーダーチャートにしたものが図5です。

【Q2. シラバスを参考にしたか】は最も大きな0.34ポイント差が出ており、授業外の学習時間が1時間以上の学生のほうがシラバスを参考にしていることがわかります。

【Q5. 意欲的に取り組んだか】(0.24ポイント差)、【Q8. テーマ・領域に興味を覚えたか】(0.16ポイント差)、【Q9. 教員になる意欲を高める取り組み】(0.17ポイント差)では、わずかですが授業外の学習時間が1時間以上の学生の全体平均が高くなっています。

【Q10. 授業は難しかったか】(0.30ポイント差)、【Q13. テキストのレベル】(0.26ポイント差)については、授業外の学習時間が1時間以上の学生の方が「難しい」「やや難しい」と回答している割合が高いことがわかります。

FD委員会では、今後も授業アンケートを実施し、授業の現状を把握し、授業向上のためのデータを検討していきたいと考えています。今後ともご協力くださいますようお願い申し上げます。

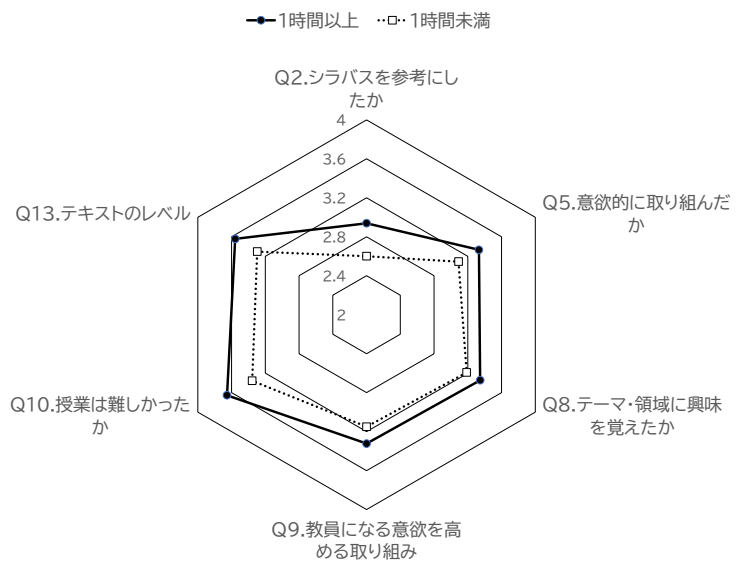


図5 【Q4. 授業外の学習時間】の違いによる平均点

## 2. 2025年度第1回FD研修会について

2025年6月18日(水) 13:00 から 13:50 に、第1回FD研修会が開かれました。社会科学科の比良友佳理先生より、「教員養成大学での著作権リテラシー」というテーマでご講演いただきました。知的財産権がご専門の比良先生が、「学校教員と著作権」「研究と著作権」「生成AIと著作権」という3点の話題をお話してくださいました。

今回のテーマの背景として、近年のイノベーションによる著作権概念の多様化があります。従来の授業や試験問題での著作物利用に関する法的理解に加え、インターネット経由での著作物利用(公衆送信)や授業目的公衆送信補償金制度の理解も必要となっています。特に生成AIを前提とした教育研究活動については、その恩恵だけでなく、リスクやトラブルなど危惧すべき点が多く存在します。

「学校教員と著作権」では、著作権法の基礎知識として法律の目的や著作権の正当化の根拠、学校教育現場における著作権の制限などについてお話を頂きました。アンケートでも「著作権の目的や正当化根拠などの「そもそも」の部分に触れることができたのが大変勉強になりました。」との反応を頂きました。「研究と著作権」では、引用の要件や出所の明示、研究倫理に関わるお話をいただきました。アンケートでも「具体的な事例含め、大変分かりやすく勉強になりました。ありがとうございました。」との反応をいただきました。「生成AIと著作権」では、AI生成物の著作権性(どのくらい具体的に指示すれば人間



が作成したといえるのか) や AI 生成物による著作権侵害 (ディズニー風など学習して生成した作品は著作権を侵害するのか)、学習段階における問題 (AI に学習させることが著作権侵害にならないのか) についてお話を頂きました。アンケートでは「2回のシリーズ実施にさせていただき、2回目でじっくり生成AIのお話をうかがいたくなる充実の内容でした。」という反応を頂きました。生成AIに関しては、今後のテーマとして、「生成AIを学生が利用して作成したレポート、卒論等について学生にどのようなリテラシー教育をすればよいか」といった話題を取り上げて欲しいという声も多くいただきました。

当日は83名の先生方にご参加頂きました。アンケートの回答では、「興味関心が湧いたか」の質問について、「大いに湧いた」「やや湧いた」の回答が99%になるなど、先生方の関心のあるテーマだったことが分かります。一方で、FD委員会の時間配分の計画に課題があり、質問の時間を十分に確保できず、「もう少し質問の時間の確保をお願いします。」「本日のテーマの場合は、質問の時間が多いほうがよいのではないかと思います。」「質問する時間をもう少し欲しい」といった反応を多く頂きました。今後の改善点として検討していきたいと思います。ご講演いただいた比良先生のお話については、「この分野の専門家がおられてよかったです。充実した時間をいただきました。ありがとうございます。」といった反応を頂きました。

教育活動と研究活動と行う京都教育大学にとって、著作権や生成AIに関する情報や考えを共有する機会は重要です。これからも現実に対応し、事実に基づいた実のあるFD研修会を企画・実施していきたいと思います。今回のFD研修会が先生方の日々の教育活動の一助となれば幸いです。

### 3. 2025年度前期 教育学部授業中間アンケート実施結果調査について

2025年度前期の学部の授業を担当された講師の方全員を対象に、授業中間アンケートに関するアンケート調査を実施しました。その結果を報告致します。

#### 1. 調査の概要と実施状況

実施目的：「授業中間アンケート」の有効性の検証

実施期間：2025年6月16日（月）から6月27日（金）

回答件数：57件 内、Google Form 19件（33%）、紙面 38件（67%）

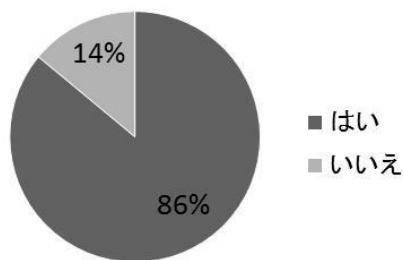
#### 2. 設問に対する回答

問1から問3は、授業中間アンケート実施の有無と実施方法に関するものです。それぞれの設問内容、回答数（括弧内の数字）、及び、結果を示します。

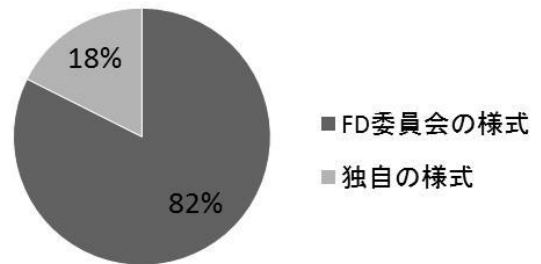
問1 独自作成のものも含め授業中間アンケートを実施した。（57）

問2 授業中間アンケートを実施しなかった主な理由についてお聞かせください。（7）

問3 使用した様式についてお聞かせください。（51）



問1 中間アンケートを実施した



問3 使用した様式

問2の実施しなかった理由については、回答方法は自由記述です。回答内容は大まかに2つに分類され、それぞれが回答のほぼ半数を占めていました。

- A：別の方法で実施                      例：毎回リアクションペーパーを出させているため  
 B：時間不足のため                      例：授業内容において時間的余裕がなかった

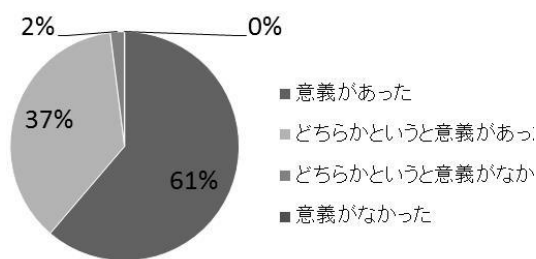
中間アンケートに相当するフィードバックを既にされている授業がある一方で、時間の制約で中間アンケートにまで手が回らない授業もあることが伺えます。その他に、「気付いたら期限が過ぎていた」、「実施の案内はもう少し早くしてもらいたい」との記述があり、周知の時期や方法に改善の余地があるかもしれません。

問4から問6は、授業中間アンケートの意義と活用に関するものです。それぞれの設問内容、回答数、及び、結果を示します。

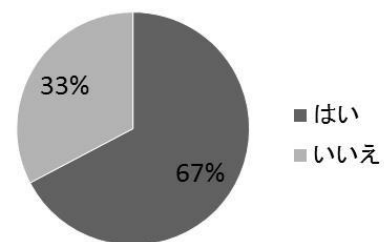
問4 中間アンケートを実施した結果についてお聞かせください。(49)

問5 授業中間アンケートの結果について、受講生と話し合ったり言及したりされましたか。(49)

問6 授業へ中間アンケート結果を反映された内容についてお聞かせください(複数回答可)。(48)



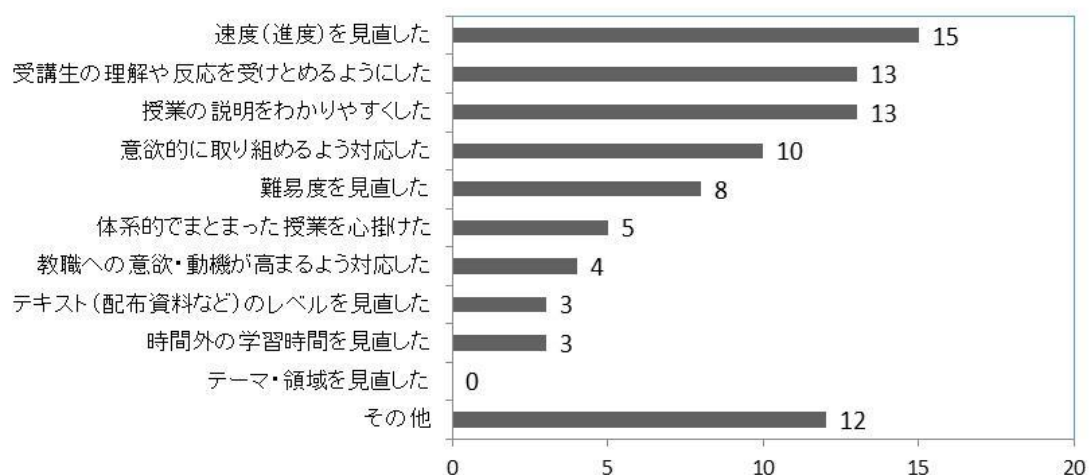
問4 中間アンケートを実施した結果



問5 受講生と話し合ったり言及した

中間アンケートを実施した講師の方の98%が、実施した意義を肯定的に捉えています。また、中間アンケートを実施した講師の方の約3分の2が受講生に直接、中間アンケートの結果を伝達する機会を設け、受講生にとっても中間アンケートの意義を感じられる機会になったものと思います。

中間アンケートは、受講生からのフィードバックとして、授業進行の軌道修正に活用されていると推測されます。問6からは、中間アンケート結果を授業に反映したその具体的な内容が見て取れます。



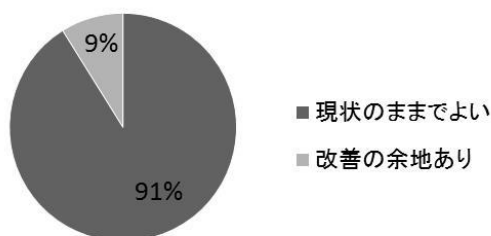
問6 授業に反映させた内容

「速度を見直した」、「理解や反応を受けとめるようにした」、「説明をわかりやすくした」との回答が多く、受講生の理解が追いつくように授業の進行を調節することに中間アンケートが用いられている様子が見て取れます。「その他」の回答も12件と多く、実状に応じて独自の工夫が取り入れられているようです。例えば、下の記述がありました。

- 「授業後の意見・感想の作成について、指示を見直した。」
- 「活動の時間を増やした」
- 「補助教材をアレンジした」
- 「課題等未提出の学生への助言」
- 「私語への対応を見直した」

問7と問8は、「授業中間アンケート」の設問に関するものです。それぞれの設問内容、回答数、及び、結果を示します。

- 問7 FD委員会様式の「授業中間アンケート」の設問についてお聞かせください。(45)
- 問8 問7について具体的にお聞かせください。(5)



問7「授業アンケート」の設問について

問8の改善の具体的提案としては、「総合的にみた授業の満足度を聞く項目があると良い」、「否定的な回答について、どのようなことを望んでいるかの理由が知りたい」といった設問項目の追加、変更に関する意見がありました。また、「完全にペーパーレス化」や「学生によるデータ入力」の提案があり、デジタル化の志向が伺えます。今後の検討課題かと思われます。

### 3. おわりに

回答件数は例年60件前後、Webによる回答率も30%前後で、今回も大きな変化はありませんでした。アンケートから見た中間アンケートの実施件数は49件で、決して多い数ではありません。背景には、回答にもある様に毎回の授業の中で受講生からのフィードバックを得ていることがあるかもしれません。今後、Webを通じたデジタル式のフィードバック方法が増えると予想され、中間アンケート実施の意義についても今後の動向を注視する必要があるように思われます。

\*\*\*\*\*  
内容について、問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

FD委員会委員：相澤（伸）（委員長）、向井、増田、寺田、浅沼  
（事務担当：山本、村田、窪田）